次はインフレ手当だ

発行所
三池炭鉱労仂組合
大牟田市不知火町2
電話 ③3033番 ③3034番
編集兼発行人　山下　開
半年間600円　送料共

人殺し政治が許されるか

国民に寒い師走へ独占に大もうけ

すでに国民の間から「無政府状態」という言葉で表現されるまでになった、底知れぬインフレ。知っているのか知らないのか、田中内閣はこれといったテをうとうともしない。内閣改造も、目先をごまかすだけのテだというくらいのことは、国民は百も承知。怒りが沸騰するのも当たり前だ。

とくに、押しつけられている飢餓賃金と、前時代的な労働条件の下で泣かされている炭鉱労働者にとって、このひどい現実が許される道理がなく、今や職場から、家庭から、はげしい怒りが「インフレ手当要求」となって燃えあがるのも当然だ。

値上げを狙って売り惜しみ。この日本の企業に、激しい怒りを感ずる。

ドルショックを経験するほどもうかり過ぎた独占資本は、これまでのもうけ第一主義を反省し、利益を国民に還してこそ、福祉社会への道も開けるものだ。

インフレ政策の失敗を、われわれにこれ以上押しつけられてはたまらない。田中内閣が続く限り、この師走は寒さにもまして厳しいものとなりそうだ。(宮浦五分会 〝きずな〟)

低賃金に腹が立つ

——職場のみんなも言っている。「息子の受けとるボーナスより、炭労の要求額の方が少くて、息子からなめられる」。

全くひどいじゃありませんか。私の家族は五人。働き手は私一人だ。毎月の賃金は賃上げになっても余り変らず、二十万から二十二万で五万円から六万円です。月平均の赤字が二万円ほど。この赤字はボーナスを預金しておいて、それで穴うめしています。

だから旅行や車、家族そろっての外食などとても考えられない。それに悪政による物価上昇。考えれば考えるほど、自分の低賃金に腹が立ちます。せめて、私の家では四十万円のボーナスがほしかった。(宮浦七分会 〝つなぎ〟)

家の建築夢物語り

——自民党・田中内閣の列島改造論に端を発したインフレは、大資本の土地・建材・資材の買い占めにはじまり、最近では生活物資に至るまでになっている。それによって価格をつりあげ、庶民生活を破壊している。

今年初め頃市職労組は、全国で初めての停年協定を結び、六十五才で停年し、勤続三十年で退職金が一千万円という。その当時は、われわれ炭鉱マンは驚き、かつ羨望したが、果たして現在一千万円の価値がどのくらいか。

かりにその退職金でマイホームを建てるとしても、まず土地が坪四万円。八十坪で三百二十万円。家の建築費が坪二十万円。二十坪の家で四百万円。あわせて七百五十万円はかかるだろう。

残りの二百五十万円に、月々の厚生年金の四万円で、さてどんな生活ができるか。

公務員労働者にしてこうだ。われわれ炭鉱マンには、家を建てることさえ今は夢物語り。(同右)

灯油を食う自衛隊

——チリ紙、洗剤、灯油等の品不足からくる異常な物価高に、このきびしい冬をどう過ごしたらいいのか心配です。

自衛隊の灯油、ガソリン、軽油等の石油消費料は、年間約六十万キロリットルです。燃料油のほとんどが、ジェット機TD4の訓練用です。

灯油の使用量だけを十八リットル入り罐で換算すると、一千三百三十万罐。月当たり一世帯三罐使用するとしてさえ、四百四十万世帯分に相当します。これは、東京都の全世帯の一カ月分以上です。

灯油一罐がままならぬ庶民として、「せめて一時間でも、ジェット機TD4の訓練をやめてくれ」といいたい。

労働者が先頭に立って、いよいよ政治の流れを変える時期ではないでしょうか。(四山六分会 〝とりで〟)

許されぬ人殺し

——小使いを貯めて、久しぶりに平戸へ釣りに行ったら、人当たり四千五百円かかった。昨年の六月には、二千五百円で、こんどの倍量も持って行けた餌だ。

釣り結果は別として、面白味は半減。アー。

夕食時、バアちゃんが言った。「三池商事にチリ紙買いに行ったら、なかったバイ。値上げを当て込んどっとか、あるとは菓子ばかり。ほかはチラホラ。何んでん高うなったねー。手のつけられん」

生協も、嗜好品を含めて全生活品が扱えないものか。

刃物を使わない、人殺し政治。三井も、人を何百人と虫ケラのように殺して反省もしないが。

最低の生活を無理強いされている者の飯茶わんまでたたき落としほし殺そうとする奴は何人たりとも許すことはできない。

チクショー。みんなそうだろう。(三川九分会 〝はぐるま〟)

気になる全炭鉱

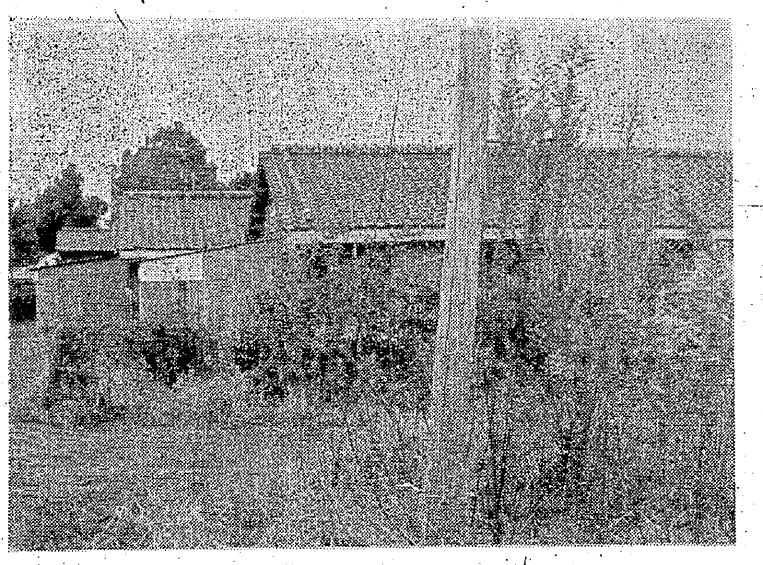
——それにしても、気になるのが全炭鉱(三池新労組)の動き。足を引っ張り、会社の顔色を気にするのが常識のようになっているが。(宮浦四分会 〝ポイント〟)

島村係員が災害死

四山鉱で落盤の下敷

二十六日午後五時十七分ごろ、四山鉱本層三十五卸東八片シールド自走枠払の払口で、大規模の落盤発生、そのため同払の上席係員の島村勇士さん(四十才。住居は大牟田市沖田町二丁目)が下敷になり惨死

すでにその落盤の直前に第一次崩落があり、危険性が明らかだった箇所だった。組合は会社の保安無視に抗議し哀悼の意を表した。



寒々とした荒尾市の原万田社宅。これでも、しあわせを求めている人間の住まいだ。

沸騰する職場の怒り

次は、職場新聞や地域新聞が伝えている数々の怒り。

買い物でケガ人も

——一個二十円の石けんが五十円になり、五十五円のマッチが百円に、砂糖が三倍になった。

生活必需品を確保するために行列をつくり、主婦など一日がかりでおしあいへしあい。あげくのはてには、ケガ人もでる。全く、無力な政治とみじめな社会に住んでいるものだ。

今年の三月から九月までの間、物価値上げによる月々の家計費の負担増二万二千六百三十四円。労働者は、春闘で勝ち取った賃上げ分をそれを上回って取り返えされた。

他方、大会社の借り入れ金は大幅に棒引きされ、大会社は値上げによって大もうけしている。(〝日刊みかわ〟)

ないないで大騒ぎ

——枯れ葉も落ち、寒さも厳しくなったが、もう師走を迎えた。この頃スーパーをはじめ、各店の店頭で不思議なことが起きている。高度経済成長を遂げ、GNP世界第二位といっていた国で、やれチリ紙がない、砂糖がない、洗剤がない……との大騒ぎ。

日本の企業がもうけ過ぎては円切り上げをやり、国民に多大な迷惑をかけ、こんどはインフレムードに便乗して品不足をあおって、

この二十七日、炭労の期末手当闘争は終った。十九万三千五百円(内わけ—期末手当一八三、〇〇〇円。生産協力金八、〇〇〇円。福利厚生資金二、五〇〇円)が、石炭資本の最終回答だった。

炭労要求の二十万円にはなお六千五百円足りず、当然ながら職場に家庭に不満が大きく残った。だがこれも、三池新労組をのぞく全炭鉱労働者が固めたストライキ体制が勝ち取ることのできたもので、その点高く評価しなければなるまい。

全炭鉱といっても主体は三池新労組で、七千人の組織人員中

三池新労もストを

それが要求獲得の力

三池新労組が四千八百七十五人を占めているほど。その三池新労組をのぞく二千百二十五人がストライキ態勢を固めてさえ力となったことを思うと、三池新労組が歩調をそろえることができさえすれば、全炭鉱労働者はもっと満足のゆく期末手当を勝ち取ることができたに違いない。

三池労組が二十八日発行したビラは〝三池炭鉱労働者が、地下産業で働く人間としてそれにふさわしい要求や条件を勝ち取るには、もはや「統一された団結以外にない」として、次のようにうったえている。

一、三池新労組の執行部に対して、全炭鉱も炭労と同じく新たな決意と共闘体制でインフレ手当闘争をとりくむよう突きあげを開始しよう。

二、そのために、それぞれの職場ごとに今から話し合いを深め、職場からの圧倒的な世論をまき起こそう。

三、少くとも経済闘争には妥協せず、ストライキ権を確立して、インフレ手当闘争や七四春闘には、三池新労もストライキに参加できる体制をつくりあげよう。

なおこれまで大幅期末手当を勝ちとったところは大牟田の例で、三井東庄化学二十八万円、西鉄二十二万七千二百五十四円三煉四十七万三千円(年間)、市職約二十八万(一次回答)。他略。